

## 【千葉北部地区】

# 投資信託の基礎知識

## — 消費者教育の一層の充実に向けて —

### 1 はじめに

今年度より新教育課程が始まり、消費者教育の分野で新たに金融商品や資産形成について授業で触れることとなった。しかし、高校生に向けて、どのような内容をどこまで扱うか、強調すべきポイントはどこなのか、等の不安の声は大きい。そこで、その不安を解消するため、今回の研修では日本証券業協会の金融・証券インストラクターの方から、特に投資信託についての基礎的な知識を講義していただくこととなった。

### 2 研修計画

- (1) 令和4年5月25日 (水) 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和4年8月5日 (金) 研修会 [会場：県立犢橋高等学校 被服室]  
講師：日本証券業協会 金融・証券インストラクター 服部 博之 氏

### 3 研修内容

#### (1) 金融商品の基礎知識

##### 【金融商品の3つの特徴】

金融商品は、安全性（元本や利子の支払いが確実か）、収益性（大きい収益が期待できるか）、流動性（必要ときにすぐに換金できるか）の3つの特徴がある。3つとも◎の商品はない。したがって、ローリスク・ハイリターン（高リスク・高リターン）の金融商品はないこととなる。

	安全性	収益性	流動性
普通預金	◎	△	◎
株式	△	◎	○
債券	○	○	△

#### (2) 投資信託について

##### ①投資信託とは

個人の投資家が、少額から投資した資金を運用会社（専門家）が様々な投資対象に分散投資する商品のことを投資信託という。投資対象には国内外の株式・債券・不動産等があり、発生した収益が投資家に分配される。

##### ②購入前のチェックポイント

購入前には、重要情報を確認する。「どのように運用するのか?」「どのようなリスクがあるのか?」「過去の実績はどのようなものか?」「コスト（購入時手数料や運用管理費用、税金など）はどうなっているか?」など。この際、自分が理解できない商品には投資しないのがポイントとなる。また、重要情報をきちんと確認して、商品の仕組みを自分の頭で理解するプロセスがあれば、悪質な商品にだまされるリスクは減るとのこと。

### (3) NISAについて

少額の投資が非課税になる制度をNISAといい、通常では金融商品の利益に対して 20.315%の税金がかかるところを、NISA制度を利用すると非課税となる。

#### ①一般NISAについて

年間購入限度額が 120 万円までの制度となっており、非課税期間は 5 年間。期間内で得た売買益や配当金などは非課税になる。対象商品は上場株式や上場投資信託 (ETN)、不動産投資信託 (REIT) など幅広い。

#### ②積み立てNISAについて

年間購入限度額が 40 万円までの、少額投資向け制度。また、非課税期間が 20 年間となっており、長期投資に最適である。こちらも、期間内で得た売買益や配当金は非課税になる。つみたてNISAの対象商品となるものは、株式投資信託と上場投資信託のうち「長期の積み立て・分散投資に適した一定の商品性を有するもの」が対象となり、国の基準を満たした商品が金融庁のホームページに掲載されている。

### (4) iDeCo について

公的年金に上乗せする年金制度の 1 種に、確定拠出年金がある (日本の年金制度の 3 階建ての構造の内、上階にあたる 2 ~ 3 階を豊かにできる制度)。確定拠出年金には、企業が導入する企業型と、個人が加入する個人型があり、個人型のものを iDeCo という。iDeCo は、加入者が自分で金融商品を選んで運用し、原則 60 歳以降に老齢給付金として受け取ることができる。金融機関が提示する商品には元本確保型商品 (預金や保険などの形。貯めたい人向き) と投資型商品 (投資信託などの形。増やしたい人向き) があり、運用次第で将来受け取る金額が変わる。

## 4 考察

金融商品や資産形成についてどのように授業を行うか手探りの状態であったが、今回の研修で一通りの知識を体系的に身につけることができ、教材研究への意欲が高まった。それと同時に、金融商品の幅広さや奥深さを感じ、それらの理解を深めるためにも今回の研修だけでなく、自分でも更に勉強を重ねる必要があると感じた。教える内容が多岐にわたる中で、生徒達の将来を見据えた、中身の濃い授業を展開できるよう、これからは情報収集を重ねていきたい。



## 5 おわりに

今回の新教育課程における学習内容の変化だけでなく、現代では家庭を取り巻く社会や価値観自体が急速に変わっていき、変化の波に合わせて教える内容も柔軟に考えていくことが求められている。各校少人数の定数の中で家庭科を教えるにあたり、このような研修会や、先生方との交流の機会を大事にして、自分自身をアップデートしていくことの大切さを身に染みて感じた。

